

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は山田史談会長の佐藤仁志さん（豊間根・72）です。

幸八は嘉永6年（1853）大沢村に生まれ、若くして家業の農業を継いだ。

明治16年大沢村住民会が組織され、幸八は30歳で委員、36歳で村議会議員、後住民会会長に選任され、地域経済の振興に取り組んだ。

明治29年6月15日（陰暦5月5日）午後8時55分、三陸沿岸に大

津波が襲来。村長藤原熊吉、収入役安部（五郎三郎）共に溺死、

役場を小学校裏の備荒倉に開設。会議には南陽寺本堂を借用し、

村議会議員千代川幸八、阿部八之助、鈴木六弥の3人を残し議員5人も溺死した。大沢村の死者は実に416人に及び、民戸4戸を残し240戸流失（山谷集落11戸は免れた）、海岸通りの15、6間が削り取られるなど目に余る惨状であった。

村長代理に当時43歳であつた幸八が任命され、村役場を小学校裏の備荒倉に開設。会議には南陽寺本堂を借用し、

大沢村の復興・発展に尽力した

千代川 幸八



千代川善春さん宅にある幸八と妻トミさんの肖像画

緊急村相談会を開き復興委員15人を選出すると、幸八自ら陣頭に立ち救援隊による救出、遺体の収容、倒壊家屋の撤去、道路の確保、海岸流失物の撤去などの指揮をとり、作

幸八は村における養蚕の先駆者ともいわれ、村の農会副会長を務めた後、下閉伊産馬畜産組合の副組合長を務め畜産業の発展にも努めた。

幸八は明治31年から8年間郡議会議員を務め、36年には郡会参事を務めた。35年漁業法が制定され、住民会は漁業組合と改称。幸八は理事に選ばれ、大沢漁業組合の充実発展に尽力した。任期中の昭和4年5月、幸八は波乱万丈の74年の生涯を終えた。

業は夜を徹して行われた。間もなく郡、県の支援により決壊道路や護岸の修築、仮設住宅の建設など復興工事が行われた。翌30年4月幸八は体調を崩し引退、遠山則之が村長に就任した。

明治32年10月、幸八は推されて村の名誉助役に就任。遠山則之、摂待治一、中野健次郎、竹内宗永、佐々木順と5代の村長の下で13年間、財政の建て直しに努めた。44年には大沢―豊間根間道路も開削されるなど交通、産業の復興にも尽力し、45年に助役を退任。大正期に入り、請われて村議会議員を2期務め、村政に貢献した。

町長室から

岩手県飲食業生活衛生同業組合の総会が、5月15日に開催されました。今年は山田町の組合が当番なので本来であれば町内で開催すべきところですが、会場の都合で大槌町になったという事です。今月の24日には東北高等学校相撲選手権が町内で予定されており、せっかくの機会にもかかわらずお客さまを全員町内にお泊めできないのが残念です▼飲食業組合ではお客さまのために陸中丸をチャーターして山田港を出発、船越半島を一周して吉里吉里港に入港する歓迎行事を行いました。私も乗船させていただきました。私も乗船させていただきました。私もお客さまを全員町内にお泊めできないのが残念です▼飲食業組合ではお客さまのために陸中丸をチャーターして山田港を出発、船越半島を一周して吉里吉里港に入港する歓迎行事を行いました。私も乗船させていただきました。私も乗船させていただきました。

山田町長 沼崎喜一